

HiKOKI

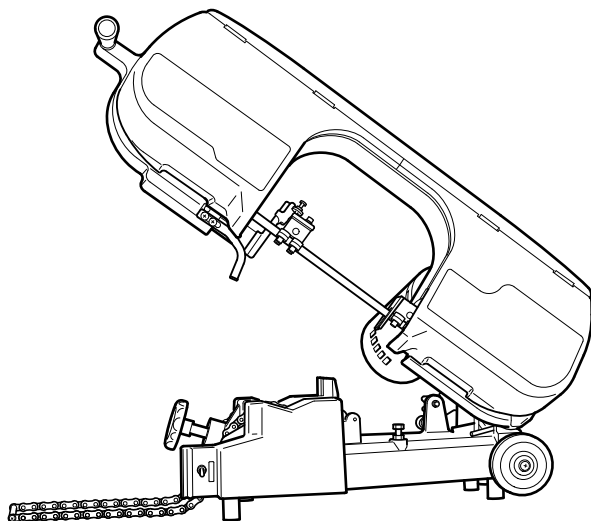
ロータリバンドソー

180 mm **CB 18F3**

180 mm **CB 18FA3**

取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



CB 18F3

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

目 次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
ロータリバンドソーの使用上のご注意	5
各部の名称	7
仕様	9
標準付属品	9
別売部品	10
用途	10
作業前の準備	11
ご使用前に	13
帯のこ、帯のこ周速、切断荷重の選定について	15
切断作業と操作の手順	16
帯のこの取付け・取りはずし	21
各部の調整方法	23
過負荷保護装置について	25
故障診断	26
保守・点検	27
ご修理のときは	裏表紙

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
散らかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**
電動工具を使用中、体をアース（接地）されている物に接触させないようにしてください。
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)
- ④ **子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
 - 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。

警告

- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
- ⑨ **保護メガネを使用してください。**
- 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ **防音保護具を着用してください。**
- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ **コードを乱暴に扱わないでください。**
- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引いてコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ **加工する物をしっかりと固定してください。**
- 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
- 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ **電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
- 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、良く切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードを点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店に依頼してください。
 - 継ぎ（延長）コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ **次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。**
- 使用しない、または、準備・調整・点検・修理する場合。
 - 付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。

警告

- ⑩ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑪ 不用意な始動は避けてください。**
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑫ 屋外使用に合った継ぎ（延長）コードを使用してください。**
屋外で継ぎ（延長）コードを使用する場合、キャプタイヤコードまたはキャプタイヤケーブルを使用してください。
- ⑬ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。**
- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
 - 常識を働かせてください。
 - 疲れているときは、使用しないでください。
- ⑭ 損傷した部品がないか点検してください。**
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
 - スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。
- ⑮ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。**
この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外の物を使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。
- ⑯ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。**
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

ロータリバンドソーの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、ロータリバンドソーとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

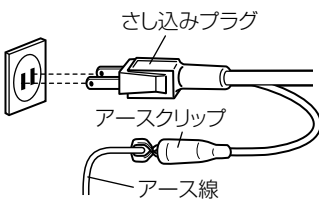
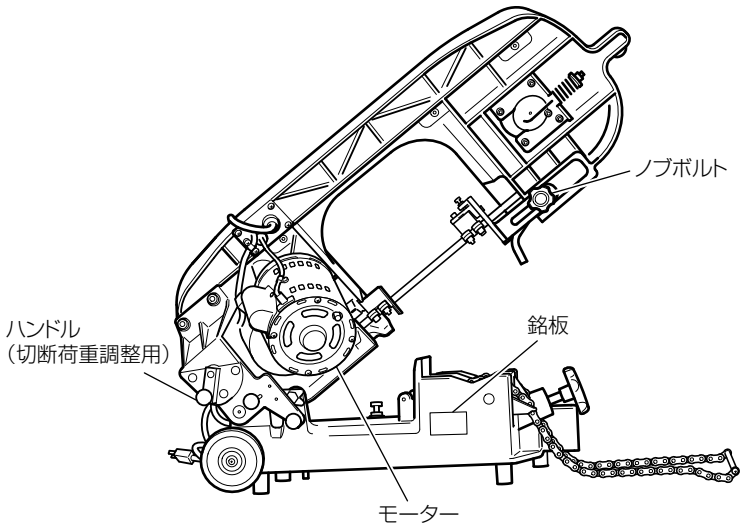
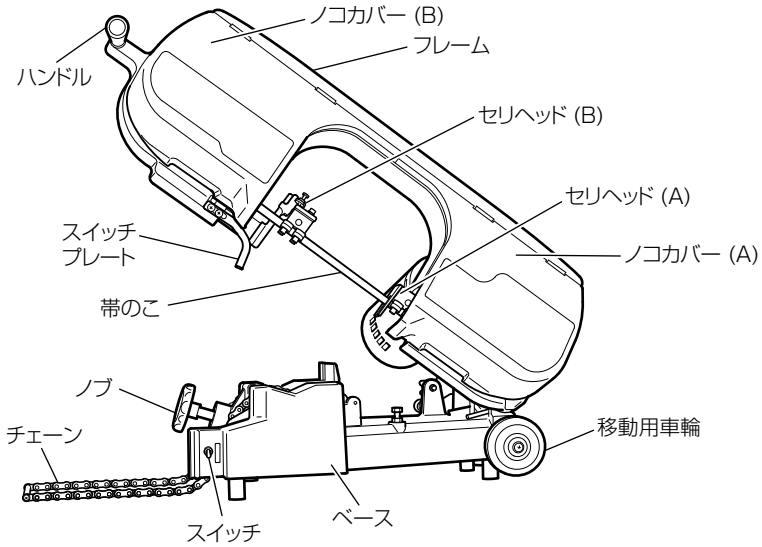
警告

- ① **使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。**
表示を超える電圧で使用すると、モーターの焼損、破損およびけがの原因になります。
詳細は、13 ページの「1. 使用電源を確かめる」の項を参照してください。
- ② **必ずアース（接地）してください。**
故障や漏電などのとき、感電の恐れがあります。
詳細は、11 ページの「3. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認」の項を参照してください。
- ③ **ノコカバーは、必ず閉じて使用してください。**
ノコカバーを開いた状態で使用すると、けがの原因になります。
- ④ **帯のこを回転させたまま、材料の取付け、取りはずしをしないでください。**
材料や手などが回転中の帯のこに巻き込まれて、けがの原因になります。
- ⑤ **使用中は、回転している帯のこに手や顔などを近づけないでください。**
けがの原因になります。
- ⑥ **使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。**
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑦ **誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、帯のこや機体などに破損や亀裂、変形がないことを良く点検してください。**
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ⑧ **継ぎ（延長）コードを使用するときは、アース線を備えた 3 心キャブタイヤケーブルを使用してください。**
アース線のない 2 心コードですと、感電の原因になります。

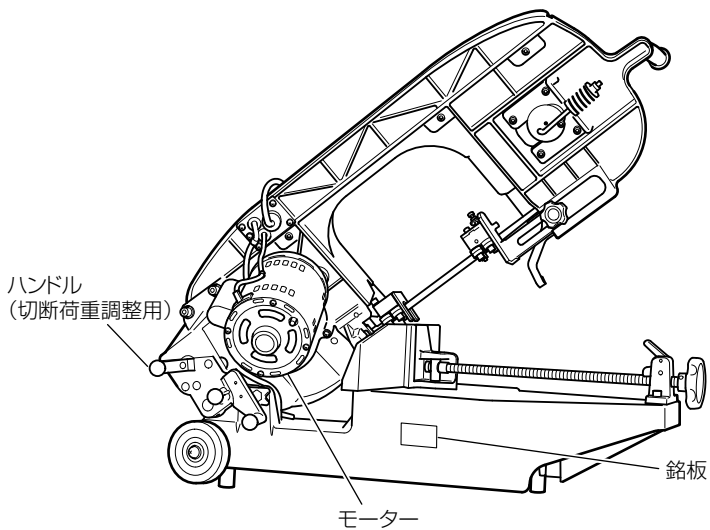
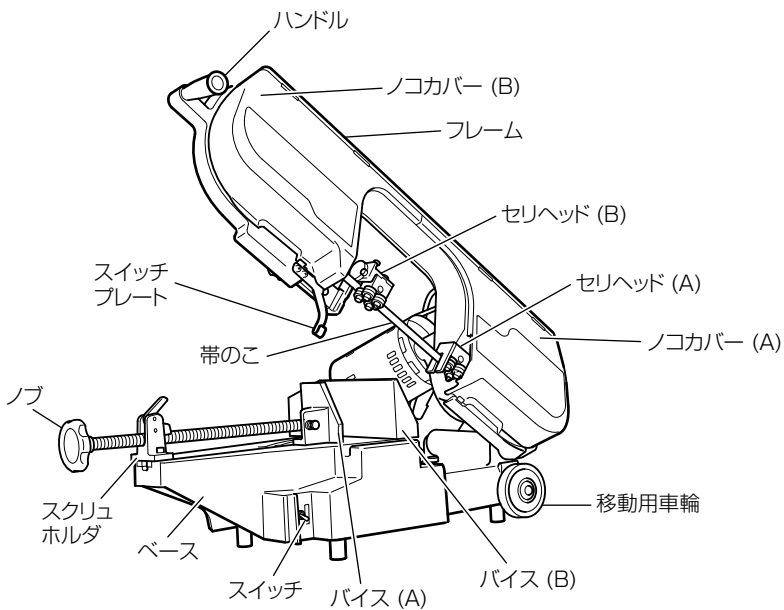
注意

- ① 帯のこや付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
確実にしないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② 機体は、傾斜のない平たんな場所にすえ付けてください。
不安定な状態では、作業中、機体や材料が動いて帯のこが破損し、けがの原因になります。
- ③ 材料は、機体に付属のバイスで確実に固定してください。
材料の固定が不十分ですと、材料が動いて帯のこが破損し、けがの原因になります。
- ④ 機体を使用中には、手袋の着用は避けてください。
手袋をして作業すると、回転部に巻き込まれる恐れがあり、けがの原因になります。
- ⑤ 材料に帯のこを急激に落下させないでください。
帯のこが破損し、けがの原因になります。
- ⑥ 回転する帯のこで、コードを切断しないよう注意してください。
感電の恐れがあります。
- ⑦ 切断直後の材料は、熱くなっているので素手で触らないでください。
やけどの原因になります。
- ⑧ 帯のこを回転させたまま、放置しないでください。
けがの原因になります。

各部の名称



(CB 18F3)

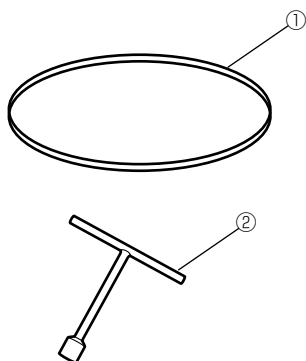


(CB 18FA3)

仕 様

項 目	CB 18F3 (チェーンバイス)	CB 18FA3 (平バイス)	
使 用 電 源	単相交流 50/60 Hz 共用	電圧 100 V	
全 負 荷 電 流	6.8 A 50 Hz 5.8 A 60 Hz		
モ ー タ ー	コンデンサ始動形 単相誘導モーター 250 W		
帯 の こ 寸 法	幅 12.5 × 厚さ 0.65 × 長さ 1,840 mm		
帯のこ周速	高速	0.7/0.9 m/s {44/54 m/min} 50/60 Hz	
	低速	— 0.5/0.6 m/s {30/37 m/min} 50/60 Hz	
最大切断寸法	直角	丸パイプ 外径 180 mm	丸パイプ 外径 180 mm
		角パイプ 幅 150 × 高さ 150 mm	角パイプ 幅 150 × 高さ 150 mm
		丸 棒 外径 60 mm	丸 棒 外径 60 mm
	45°	—	丸パイプ 外径 115 mm
		—	角パイプ 幅 100 × 高さ 100 mm
		—	丸 棒 外径 45 mm
角度切断範囲	直角	直角 ~ 45°	
バイス最大開き幅	—	315 mm	
機 体 寸 法	幅 935 × 高さ 455 × 奥行 416 mm	幅 935 × 高さ 455 × 奥行 416 mm	
質 量	38 kg	43 kg	
コ ー ド	アースクリップ付 3心キャブタイヤケーブル 3 m		
そ の 他	過負荷保護装置付		

標準付属品



- ① 帯のこ (本体付属) 1 本
(ハイス 14 山 / インチ)
- ② ボックススパナ (17 mm) 1 本
(CB 18FA3 のみ)

別売部品

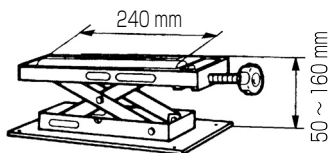
(別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください。)

1. 帯のこ

帯のこ No.	材質・刃の山数 / インチ	コード No.	本数
1	合金 24山	0097-6580	10本入
2	合金 18山	0097-6581	
3	合金 14山	0097-6582	
4	合金 10山	0097-6583	
5	合金 8山	0097-6584	
6	ハイス 14山	0031-8789	5本入
26	ハイス 14山	0032-3025	
8	グリットタイプ	0098-8620	1本入
9	ハイス 18山	0031-8791	5本入
29	ハイス 18山	0032-3026	
10	ハイス 8山	0031-8792	
11	ハイス 24山	0031-8793	
12	ハイス 32山	0031-8794	
13	ハイス 10～14山	0032-1146	

切断材料の材質・形状などに適した帯のこの選定は、15ページの「帯のこ、帯のこ周速、切断荷重の選定について」の項を参照してください。

2. 補助ローラ [コード No. 0030-9450]



長い材料の支持ローラとしてご使用になると便利です。

用 途

- 鋼管、ライニング鋼管、棒鋼などの各種軟鋼材の切断
- アルミサッシなどの非鉄金属材料の切断
- プラスチックの切断

(熱軟化性のプラスチックは切削熱で溶けて、帯のこがくい込み切断できません。)

注 ●焼入鋼などのかたい材料は、切断しないでください。

作業前の準備

ご使用前に次の準備をすませてください。

1. 運搬・移動

機体を運搬する際は、フレームを下限位置で固定（14 ページの 5 項の図参照）し、ハンドルとベース後方（7、8 ページの図参照）を持ち、二人で運搬してください。

また、機体を移動用車輪で移動する場合も、フレームを下限位置で固定し、ハンドルを持ち上げて移動してください。

2. すえ付け

機体は傾斜のない平たんな場所へ、安定した状態にすえ付けてください。

3. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認

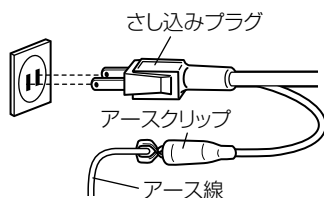
警告

- アース線をガス管に取付けると爆発の恐れがあるので、絶対にしないでください。

ご使用にさきだち、本機が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置（以下、漏電しゃ断器と言います。）が設置されていることを確認してください。

また、この機体は必ずアース（接地）をしてください。定格感度電流 15 mA 以下、動作時間 0.1 秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器が設置されている電源でお使いになる場合でも、より安全のためにアースされるようお勧めします。

アースするときには、左図のアースクリップをお使いになると便利です。



アースクリップ、アース線は、念のために異常のないことを確認してからご使用ください。テスターや絶縁抵抗計などをお持ちでしたら、アースクリップと機体の金属外枠との間の導通を確認してください。

地中にアース極（アース板、アース棒）を埋め、アース線を接続するなどの接地工事は、電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店にご相談ください。

4. 継ぎ（延長）コード



警告

- 継ぎ（延長）コードは、損傷のない物を使用してください。

電源がはなれているときは、電流を流すのに十分な太さの継ぎ（延長）コードをできるだけ短くして使用します。

次の表は、コードの太さ（導体公称断面積）によって、機体に使用できるコードの最大長さを示します。

導体公称断面積	最大長さ
1.25 mm ²	10 m
2 mm ²	15 m
3.5 mm ²	30 m

これを超える長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

継ぎ（延長）コードは必ずアース（接地）できるアース（接地）用の1心を持つ3心キャブタイヤケーブルをお使いください。

5. 防錆油のふき取り

新品のときは、ベース上面、バイス面（7、8ページの図参照）に防錆油が塗ってありますので、ご使用前に砂、土、切りくず、ほこりなどの付いていない木綿の布などでふき取ってください。

6. 作業環境の整備・確認

作業する場所が2ページの「電動工具の安全上のご注意」①、②、③、④項の注意事項にかかげられているような適切な状態になっているかどうか確かめてください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

警告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～5項については、さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる

必ず、銘板に表示してある電圧で使用してください。表示を超える電圧で使用すると、モーターが破損する恐れがあります。

また、直流電源、エンジン発電機、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。製品が故障するだけでなく、事故の原因になります。

2. スイッチが切れていることを確かめる

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源コンセントにさし込むと不用意に機体が起動し、思わぬ事故のもとになります。

スイッチ(7、8ページの図参照)は、スイッチのレバーを「ON」側に倒すと入り、「OFF」側に倒すと切れます。スイッチが切れていることを確認してください。

3. 帯のこの取付けを確かめる

帯のこの取付け状態を確認してください。

詳細は、21ページの「帯のこの取付け・取りはずし」の項を参照してください。

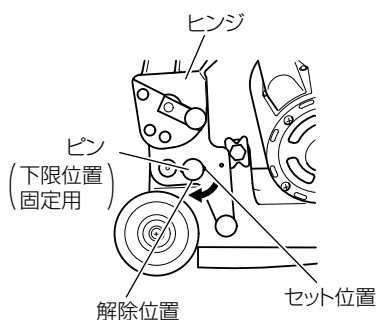
4. 帯のこを確かめる

警告

- 帯のこに刃欠け、ヒビなどの異常がないことを確認してください。異常があると、帯のこが破損し、けがの原因になります。

帯のこは正規のモノか、また刃欠け、ヒビなどがいないか十分確認してください。

5. フレーム下限位置固定用のピンを解除する



ご使用前に、必ずヒンジ側面のピンを引き、約 90° 右回転させて、フレームの下限位置固定を解除してください。

機体の移動時と収納時は、ピンを約 90° 左回転させ、ピンをセット位置にして、フレームを下限位置で固定してください。

6. 電源コンセントの点検

さし込みプラグをさし込んだとき、電源コンセントがガタガタだったり、さし込みプラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

帯のこ、帯のこ周速、切断荷重の選定について

⚠注意

- 機体のノコカバーに貼付けてある選定表から、材料に適した帯のこ、帯のこ周速、切断荷重を選定してください。
材料に適さない帯のこ、帯のこ周速、切断荷重で切断すると、切断精度が悪くなるばかりでなく、帯のこ破損の原因になります。
- 帯のこの山数の選定は、材料の肉厚に刃の山数が2山以上かかることを基準に選定してください。

1. 帯のこ、帯のこ周速、切断荷重の選定方法

帯のこ、帯のこ周速、切断荷重は、材料の材質、形状、大きさにより下記の選定表から選定します。

合金の帯のこ(24、18、14、10、8山/インチ)は、炭素鋼などの一般鋼材の切断に適しています。

ハイスの帯のこ(32、24、18、14、10、8山/インチ)は、一般鋼材からステンレス鋼などの難削材までの切断に適しています。

また、グリッドソーは、石綿二層管、FRP、レンガなどの切断に適しています。

○ 帯のこ、切断荷重および帯のこ周速選定表

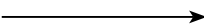
帯のこ種類・山数(山/インチ) 材料・肉厚(mm)		合 金					ハ イ ス					帯のこ 周 速	
		24	18	14	10	8	32	24	18	14	10		8
鋼材(丸棒、形鋼) 炭素鋼管(ガス管)	3以下	軽					軽	軽	中				高速
	3～6		中	中					重	重			
	6～10			重	重					重	重		
	10～60					重						重	
ステンレス管 合金鋼などの 難削材	1.2以下						軽	軽					低速
	1.3～4							軽	中	中			
	4～10									重	重		
	10～60											重	

軽：軽荷重 中：中荷重 重：重荷重

- 注**
- 帯のこ周速の「高速」「低速」の設定は、CB 18FA3 だけの機能になります。
 - 切断荷重の設定は、上表の他に「最軽荷重」が設定可能です。設定した場合、切断精度は向上するが、逆に切断時間が長くなったり、切断できなくなる場合があるので、通常は、プラスチックだけの切断に使用してください。

例 1) 配管用炭素鋼鋼管 SGP 150A (外径 165.2 mm、肉厚 5.0 mm) の場合

材料：炭素鋼管
肉厚：5 mm



（選定表の炭素鋼管の肉厚 3～6 mm の欄を見て、帯のこなどを選定する。）

使用帯のこ：ハイス 14、18 山 / インチ
または合金 14、18 山 / インチ
切断荷重：重荷重

例 2) 機械構造用炭素鋼丸棒 S 45C 外径 60 mm の場合

材料：鋼材 (丸棒)
肉厚 (外径)：60 mm



（選定表の鋼材 (丸棒) の肉厚 10～60 mm の欄を見て、帯のこなどを選定する。）

使用帯のこ：ハイス 8 山 / インチ
または合金 8 山 / インチ
切断荷重：重荷重

切断作業と操作の手順

1. 帯のこ選定

⚠ 警告

- 材料に適した帯のこを選定してください。

材料に適さない帯のこで切断すると、切断能率が低下するばかりでなく、帯のこ破損の原因になります。

材料の形状、材質、肉厚により、帯のこの種類と刃の山数 / インチを選定してください。

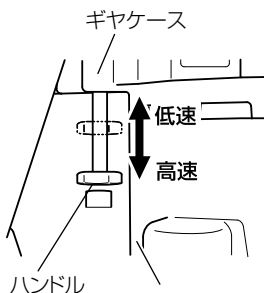
帯のこの選定は、15 ページの「帯のこ、帯のこ周速、切断荷重の選定について」の項を参照してください。

2. 帯のご周速の設定 (CB 18FA3 だけ)

警告

- 材料に適した帯のご周速を設定してください。

材料に適さない帯のご周速で切断すると、切断精度が悪くなるばかりでなく、帯のご破損の原因になります。



帯のご周速の切り替えは、ハンドルを手前に引くと「高速」になり、ハンドルを奥側に押すと「低速」になります。材料に適した帯のご周速を設定してください。

また、帯のご周速の切り替えは、運転中に切り替えてください。

帯のご周速の設定は、15 ページの「帯のご、帯のご周速、切断荷重の選定について」の項を参照してください。

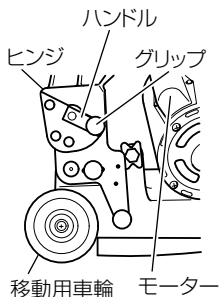
3. 切断荷重の設定

警告

- 材料に適した切断荷重を設定してください。

材料に適さない切断荷重で切断すると、切断精度が悪くなるばかりでなく、帯のご破損の原因になります。

① 最軽荷重



② 軽荷重



③ 中荷重



④ 重荷重



材料の形状、材質、肉厚に適した切断荷重に設定してください。

切断荷重の切り替えは、機体用ハンドル (7、8 ページの図参照) を持ち、フレームを最上部まで持ち上げた状態で、グリップを引いて、ハンドルを回転することにより、**最軽荷重**、**軽荷重**、**中荷重**、**重荷重** の 4 段階に設定できます。ハンドルの位置をモーター側にすると **最軽荷重**、次に **軽荷重**、真中にする **中荷重**、移動用車輪側にする **重荷重** になります。

切断荷重の設定は、15 ページの「帯のご、帯のご周速、切断荷重の選定について」の項を参照してください。

4. 材料の固定

⚠ 警告

- 帯のこを回転させたまま、材料の取付け・取りはずしをしないでください。
材料や手などが回転中の帯のこに巻き込まれて、けがの原因になります。

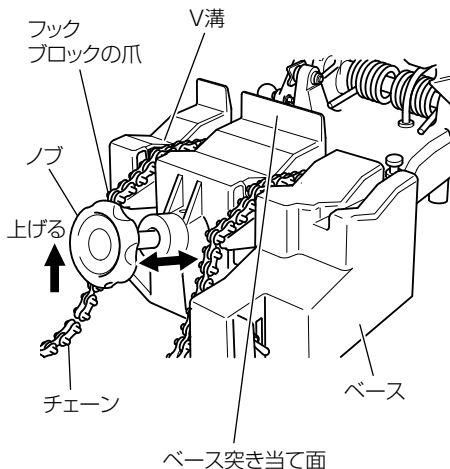
⚠ 注意

- 材料は、機体に付属のバイスで確実に固定してください。また、長い材料の場合は、支持台を設けてください。
材料の固定が不十分であると、材料が動き、切断精度が悪くなるだけでなく、帯のこが破損して、けがの原因になります。
- 材料を固定するときは、材料に付着している油、汚れをふき取り、バイス面とベース上面の切りくずなどを取り除いてください。
油、汚れ、切りくずなどが付いていると、切断精度が悪くなるだけでなく、切断時の振動が大きくなり、帯のこ破損の原因になります。

(1) チェーンバイスによる材料の固定 (CB 18F3 の場合)

⚠ 注意

- チェーンを必要以上にゆるめた状態で、フックブロックに掛けると、固定されない場合があるので、可能な限りチェーンを張ってフックブロックに掛けてください。
- 材料を多本数たばねて固定する場合、材料の置き方によって固定されない材料ができるので、ノブを締付け後、材料を手で動かしてみ、すべての材料がしっかり固定されていることを確認してください。



機体のフックブロックの爪を移動する方法には、次の2種類があります。

【その1】

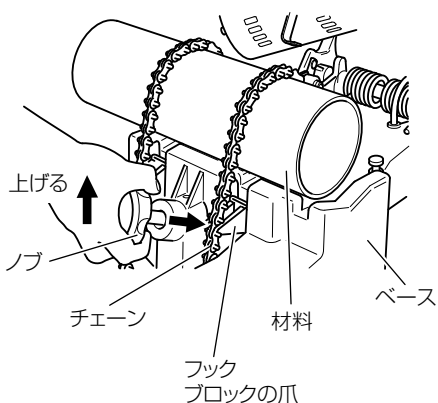
ノブを回し、ベース内のねじにかみ合わせて、フックブロックの爪を移動する方法。

【その2】

ノブを左図の上げる方向に持ち上げ、ねじのかみ合いをはずし、フックブロックの移動を速くする早送りの方法。

この機体は、2種類の操作を使い分けることにより能率良く作業ができます。

(次ページへつづく)



材料の固定は、材料をベースのV溝（前ページの左図参照）に置き、チェーンをフックブロックに掛け、ノブを回して確実に固定してください。

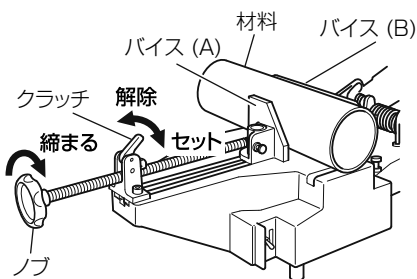
【角パイプを固定する場合】

底辺の長さが100 mm以上の角パイプは、ベースの突き当て面に材料を密着させ、100 mm未満の場合は、V溝部に角パイプの角部を押し付けて、固定してください。

(2) 平バイスによる材料の固定 (CB 18FA3の場合)

注 ・クラッチを解除しようとしても解除できない場合は、ノブを少し反時計方向に回してください。

この機体のバイスは、クラッチを解除すると早送りができ、セットするとねじ送りができます。早送りとねじ送りを使い分けることにより能率良く作業できます。



【材料の固定方法】

- (a) 材料をベース上面にのせ、バイス(B)へ押し付けます。
- (b) クラッチを解除し、バイス(A)を早送りし、材料に突き当てます。
- (c) クラッチをセットし、ノブを右回転させて材料を固定します。

5. 切断作業の方法

⚠ 警告

- ノコカバーは、必ず閉じて使用してください。
けがの原因になります。
- 材料の取付け・取りはずしは、必ずスイッチを切って、帯のこの回転が完全に停止してから作業してください。
けがの原因になります。
- 使用中は、回転している帯のこに手や顔などを近づけないでください。
けがの原因になります。
- 万一の事故を防止するため、作業後は必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

⚠ 注意

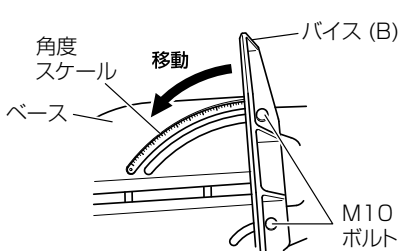
- 機体を使用中には、手袋の着用は避けてください。
手袋をして作業すると、回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- 材料に帯のこを急激に落下させないでください。
- 切断中、ハンドル部に余分な荷重をかけないでください。
- 切断中、帯のこがロックまたはスリップした場合、直ちにスイッチを切って、運転を停止してください。
運転を停止しないと帯のこ損傷の原因になります。
- 切断直後の材料は、熱くなっているので素手で触らないでください。

- (1) ハンドルを持ち、フレームを最上部まで持ち上げるとストッパが解除され、フレームを下げるができます。
- (2) 運転スイッチを入れ、帯のこに衝撃がかからないようフレームを材料の上に降ろします。
ハンドルから手をはなすとフレーム部の自重により自動的に切断され、切り終わると運転が停止します。
- (3) 切断が終わりましたらハンドルを持ち、フレームを最上部まで持ち上げ、静かに降ろすと、ストッパが働き、フレームは上部で止まります。
ハンドルから手をはなすときは、ストッパが働き、フレームが上部で止まることを確認してください。

- 注** • 新品の帯のこの場合、必ず切断荷重を **Ⓢ** 荷重にして外径 30 mm 程度の丸棒（炭素鋼）を 1～2回ならし切断してください。
ならし切断を行わないと、刃先の欠け、または切断精度を悪くする原因になります。

6. 角度切りについて (CB 18FA3 だけ)

バイス (B) の角度調整をすると、直角～45° までの角度切りができます。



【角度調整の手順】

- (1) バイス (B) を固定している M10 ボルト (2 本) を付属の 17 mm ボックススパナでゆるめます。
- (2) バイス (B) を回転させ、バイス (B) 面を任意の角度スケール目盛りに合わせます。
- (3) 角度調整後、M10 ボルト (2 本) を十分に締付け、バイス (B) を固定します。

- 注**
- 精度良く角度切りをする場合は、角度ゲージを帯のこの側面と、バイス (B) 面に当て、バイス (B) を固定してください。
 - 角度を設定したら M10 ボルト (2 本) を確実に締付けてください。
締付けが不十分ですと、材料固定のとき、バイス (B) が動く場合があります。
 - バイス (B) を直角 (0°) 位置に戻して固定するときは、バイス (B) をモーター側に押しながら M10 ボルト (2 本) を締付けてください。
 - 角度スケールの溝部の切粉は、定期的に除去してください。

帯のこの取付け・取りはずし

⚠ 警告

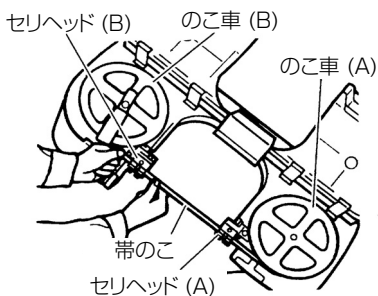
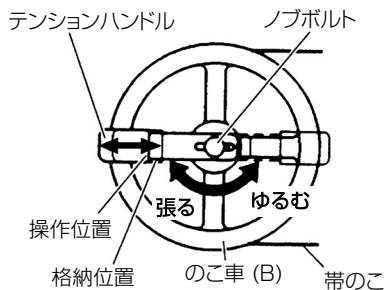
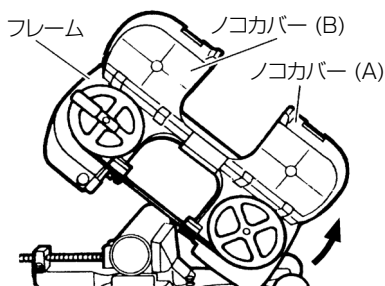
- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。
- 帯のこの交換や点検などでノコカバーを開くとき、帯のこの飛び出しに注意してください。

⚠ 注意

- 帯のこは、付着している油や汚れをふき取ってから、のこ車に取付けてください。また、のこ車に付着している切りくずや汚れもふき取ってください。帯のこに油や汚れが付着したままのこ車に取付けると、帯のこスリップまたは、はずれの原因になります。
- 帯のこを取付けるときは、帯のこの継目をねじったり、折ったりしないでください。
帯のこ損傷の原因になります。

1. 帯のこの取付け

- (1) ノコカバー (A) とノコカバー (B) を上方に開きます。(下左図)
- (2) ノブボルトを 1 回転ゆるめ、テンションハンドルを操作位置まで引き出し、ノブボルトを締付けます。(下右図)
- (3) テンションハンドルを下右図のゆるむ方向 (反時計方向) に回します。



- (4) 帯のこをフレームの上方側よりさし込み、さらにのこ車 (A)、のこ車 (B) の順で掛けます。
- (5) 帯のこをねじりながら、セリヘッド (A) とセリヘッド (B) の帯のこ背押さえボールベアリングに突き当たるまで挿入します。

- (6) テンションハンドルを上右図の張る方向 (時計方向) に回し、帯のこを張ります。
このとき、帯のこがのこ車 (A) または (B) のツバの部分に乗り上がっていないことを確認してください。
- (7) ノブボルトをゆるめ、テンションハンドルを上右図の格納位置まで移動させ、ノブボルトを締付けます。
- (8) ノコカバー (A) とノコカバー (B) を閉じます。
- (9) さし込みプラグを電源コンセントにさし込みます。
- (10) スイッチを「ON」にし、帯のこが異常なく回転することを確認してください。

2. 帯のこの取りはずし

帯のこの取付けと逆の要領で帯のこを取りはずしてください。

各部の調整方法

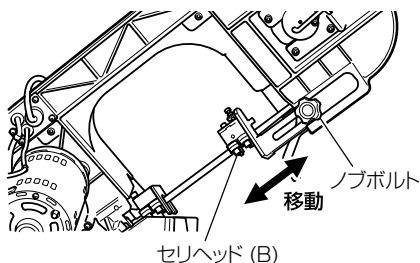
⚠ 警告

- 万一の事故を防止するため、必ずさし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

1. セリヘッド (B) の位置調整

⚠ 注意

- セリヘッド (B) を移動した後、ノブボルトを確実に締付けてください。締付けが不十分であると、切断時にセリヘッド (B) が動き、切断精度が悪くなるばかりでなく、帯のご破損の原因になります。



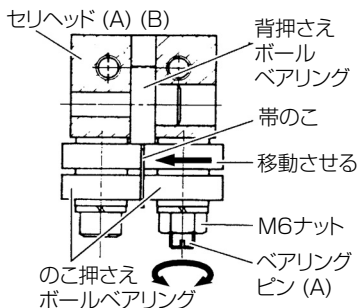
材料とセリヘッド (B) の間隔が大きいま切断しますと、切断精度が悪くなる原因になります。

材料の大きさに合わせてセリヘッド (B) を材料に近づけるように移動し、ノブボルトで固定してください。

2. のこ押さえボールベアリング間のスキマの調整

のこ押さえボールベアリング間のスキマが大きくて、帯のごが傾いて取付いていると、切断精度が悪くなります。

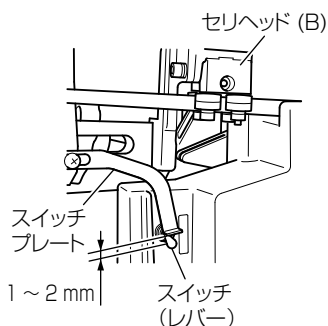
このように、のこ押さえボールベアリング間のスキマが適正でないときは、次のような調整をしてください。



- (1) 帯のごを取りはずします。
- (2) M6 ナットをゆるめます。次に、取りはずした帯のごをのこ押さえボールベアリング間に挿入します。この状態で、ベアリングピン (A) をマイナスドライバーで右方向 (時計方向) または左方向 (反時計方向) に回して、のこ押さえボールベアリングを帯のご側面に軽く接触させます。
(左図の矢印)
- (3) のこ押さえボールベアリングを帯のご側面に軽く接触させた状態で、M6 ナットでベアリングピン (A) が回転しないように固定してください。

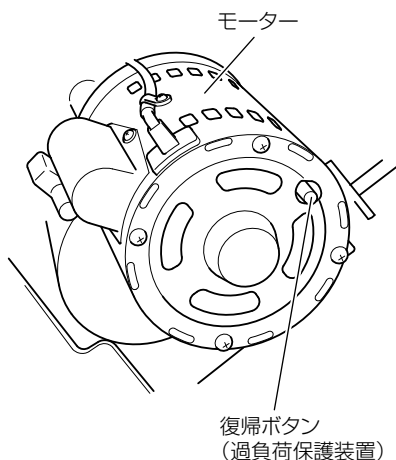
3. スイッチ切り用スイッチプレートの高さの調整

この機体は、材料を切り終わると、自動的にスイッチが切れ、運転を停止します。材料に切り残りが出たり、下限位置でスイッチが切れない場合は、次の調整をしてください。



- (1) スイッチのレバーを下げ、スイッチを切ります。
- (2) フレームを下げて、下限位置で止めます。
- (3) スイッチプレートを固定しているフレームにある 6 mm プラスナベねじ (2 本) をゆるめ、スイッチのレバーとスイッチアームのスキマが 1 ~ 2 mm になるように調整して、6 mm プラスナベねじでスイッチプレートを固定します。

過負荷保護装置について



帯のこの選定が適当でないため、材料に帯のこがくい込み、モーターが止まったり、過負荷になったりするとモーターの焼損を防止するため、モーターに内蔵されている保護装置が作動し、電源をしゃ断します。

作動した場合、一度スイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いて、原因をつきとめて処置してください。

モーター後部の復帰ボタンを押すと、再びモーターが回転します。

(復帰ボタンを押してもモーターが回転しない場合は約1分後、再度復帰ボタンを押してください。)

モーター過負荷保護装置が作動する原因と対策

原因	対策
1. 材料の材質・形状などに適した切断荷重でない	15ページの「帯のこ、帯のこ周速、切断荷重の選定について」の表により切断荷重を設定する
2. 帯のこの刃の山数/インチと材料の材質・形状が合っていない	15ページの「帯のこ、帯のこ周速、切断荷重の選定について」の表により帯のこの種類および刃の山数/インチを選定する
3. 帯のこの切れ味が悪い	帯のこを新品と交換する
4. 電圧が低い	継ぎ(延長)コードを点検する。12ページの「4. 継ぎ(延長)コード」の項を参照。電力会社に相談する
5. モーターの故障	修理に出す

原因不明の場合は、お買い求めの販売店にご依頼ください。

故障診断

状態	原因	対策
帯のこがはずれる	① 帯のこの張りが弱い	21 ページの「帯のこの取付け・取りはずし」の項を参照
	② 帯のこに油や汚れが付着している	帯のこに付着している油や汚れをふき取る
	③ 材料に油が付着している	材料の油をふき取る
	④ 帯のこがセリヘッド (A)、セリヘッド (B)、のこ車 (A)、およびのこ車 (B) に正しく取付いていない	21 ページの「帯のこの取付け・取りはずし」の項を参照
帯のこが材料にくい込む	① 材料に適した帯のこを使用していない	15 ページの「帯のこ、帯のこ周速、切断荷重の選定について」の項を参照
	② 材料に適した切断荷重にセットされていない	
	③ 帯のこの張りが弱い	21 ページの「帯のこの取付け・取りはずし」の項を参照
切断精度が悪い	① 帯のこのアサリが左右均等でない	帯のこの交換
	② 帯のこの切れ味が悪くなった	
	③ 材料に適した帯のこを使用していない	15 ページの「帯のこ、帯のこ周速、切断荷重の選定について」の項を参照
	④ 帯のこの張りが弱い	21 ページの「帯のこの取付け・取りはずし」の項を参照
	⑤ 材料に適した切断荷重にセットされていない	15 ページの「帯のこ、帯のこ周速、切断荷重の選定について」の項を参照
	⑥ 帯のこ押さえボールベアリングが摩耗している	ボールベアリングの交換
	⑦ 帯のこ押さえボールベアリングの調整が悪い	23 ページの「のこ押さえボールベアリング間のスキマの調整」の項を参照
	⑧ フレームを材料へ急激に落とした	20 ページの「切断作業の方法」の項を参照
切断時間が長い	① 材料に適した帯のこを使用していない	15 ページの「帯のこ、帯のこ周速、切断荷重の選定について」の項を参照
	② 材料に適した切断荷重にセットされていない	
	③ 帯のこの切れ味が悪くなった	帯のこの交換

(次ページへつづく)

状 態	原 因	対 策
刃先の欠け	① 切断中に材料が動いた	18ページの「材料の固定」の項を参照
	② 材料に適した帯のこを使用していない	15ページの「帯のこ、帯のこ周速、切断荷重の選定について」の項を参照
	③ フレームを材料へ急激に落とした	20ページの「切断作業の方法」の項を参照
切断中、運転が停止する。また切断終了後も自動停止しない。	① スイッチ切り用スイッチプレートの高さが適正に調整されていない	24ページの「スイッチ切り用スイッチプレートの高さの調整」の項を参照
	② スイッチの故障	修理に出す

保守・点検

警告

- 点検・手入れの際は必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

1. 帯のこの交換

帯のこの切れ味が悪くなったままご使用になっておりますとモーターに無理をかけることになり、また能率も落ちますから早目に新品と交換してください。

2. のこ押さえボールベアリングおよび背押さえボールベアリングの点検

- (1) のこ押さえボールベアリング間のスキマを正しく調整していないと、切断精度が悪くなる原因になります。時々、のこ押さえボールベアリング間のスキマが正しく調整されているかどうか点検してください。

また、のこ押さえボールベアリングが摩耗しているときは早目に新品と交換してください。

- (2) 背押さえボールベアリングが摩耗すると帯のこに無理な力がかかり、帯のこ損傷の原因になります。時々摩耗していないかどうか点検してください。

背押さえボールベアリングが摩耗しているときは早目に新品と交換してください。

3. 機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

4. モーター部の取扱いについて

モーター部（7～8ページを参照）は機体の重要な部分です。水や油などをつけないよう十分注意してください。

5. 注油について

機体を長持ちさせるため、摺動部、回転部には定期的に注油してください。

6. 清 掃

- (1) 時々機体に付いている切りくずや、ごみを布などでふき取ってください。モーター部は水や油でぬらさないようにしてください。
- (2) 時々、のこ車に付着した切りくずを乾いた布などでふき取ってください。

7. 機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
- 軒先など雨が掛かる場所、湿気のある場所
- 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

メ 毛

メ 毛

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ


お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 **0120-20-8822**

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 786-5122	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>